

点検結果報告書（第3期版）の構成見直しについて（案）

1 県民会議（施策調査専門委員会）の意見

現行の報告書は、事業の概要から始まり、事業実施状況（実績）点検についてもモニタリング調査や事業モニターによる点検の状況、県民会議委員の意見、県民フォーラムにおける意見まで、写真やグラフなども多用して説明しており、また、5か年を通じて累積的に内容を掲載していくこととしたため、非常にボリュームが大きくなっている。

このため、様々な情報がこれ1冊で分かる反面、かえって一般の方が手に取りづらかったり、報告書のメインテーマである点検評価の結論がどこにあるのかわかりづらいといったデメリットも出てきている。また、報告書の内容検討に時間を取られ、施策調査専門委員会が編集会議のようになっているという反省もある。

今後、施策の後半を迎え、施策の総合評価を進めるとともに、それを分かりやすく県民に伝えることがますます重要になってくることを踏まえて、報告書の構成の見直しを検討する必要がある。

2 点検結果報告書のコンセプト

（従 来）様々な情報がこれ1冊で分かる点検結果報告書

（第3期）シンプルかつ要点が明確、県民が手に取りやすい点検結果報告書

3 見直しの考え方（案）

点検結果報告書本来の目的に鑑み、下記のとおり見直しを図る。

- （1）毎年度の点検結果報告書では、4つの点検要素（事業進捗状況、モニタリング調査結果、事業モニター意見、県民フォーラム意見）によりアウトプットや1次的アウトカムまでの評価を行う。高次な評価（2次的アウトカム、最終的アウトカム等）については総合的な評価（中間評価）で評価を行う。
- （2）実行5か年計画や他資料と重複する情報は最低限に絞る。
- （3）グラフや表など点検報告書内での情報の重複をなくす。
- （4）原則、当該年度の内容に限定する。（事業の進捗状況や予算の執行状況等は累積する。）

過年度の報告書や事業モニター結果、県民フォーラム意見などホームページに掲載している情報については、該当するURLの案内に留める。

計画期	第3期					第4期				
年度	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38
短期的評価	H28点検結果報告	H29点検結果報告	H30点検結果報告	H31点検結果報告	H32点検結果報告	H33点検結果報告	H34点検結果報告	H35点検結果報告	H36点検結果報告	H37点検結果報告
中長期的評価	中間評価(第2回) 暫定まとめ					最終評価 最終評価暫定まとめ				
委員任期	第5期		第6期			第7期		第8期		